

5-8 東海地方に於けるラドン観測 (Ⅷ)

Radon Observations in the Tokai District (VIII)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

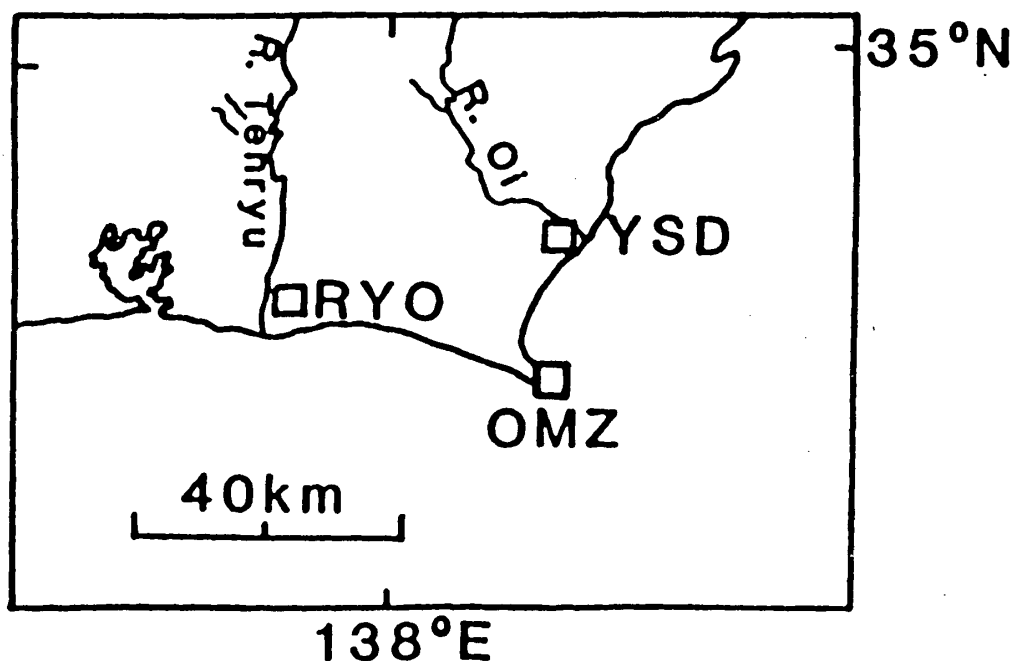
前報¹⁾にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1988年11月～1989年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す竜洋(RYO)、吉田(YSD)、御前崎(OMZ)の3地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。なお、RYOは4月に、YSDは5月に、ラドン連続測定装置を新しい装置に交換した。

OMZで5月下旬から7月中旬にかけてラドン濃度が低くなっているのは、地下水の自噴量が極度に低下したためである。YSDでは昨年にひきつづき、年間を通じてラドン濃度が極めて一定である。RYOでは例年見られる1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響と解釈される。

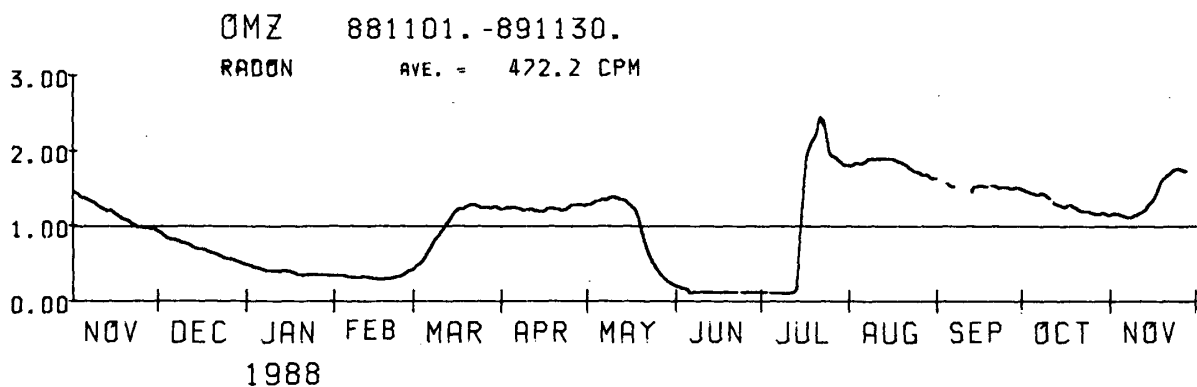
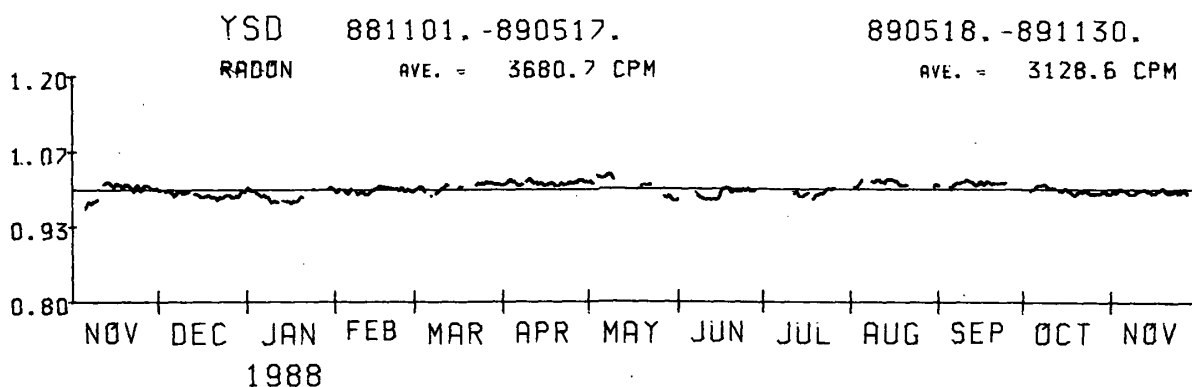
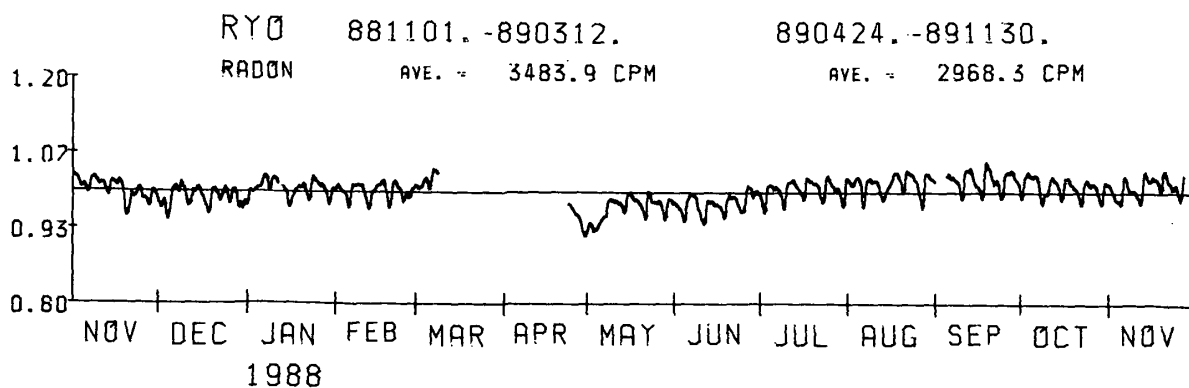
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測(Ⅶ)，連絡会報，41(1989)，408-409.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district (RYO: Ryuyo, YSD: Yoshida and OMZ: Omaezaki).



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラドン濃度の変化 (1988年11月~1989年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki) (November 1988 - November 1989).